

2024 年度 早稲田大学大学院文学研究科 入学試験問題
【修士課程】 専門科目 文化人類学 コース ※解答は別紙 (横・縦 書)

- I. 下記は、ある人類学者による人類学の学説史について考察した文章から一部抜粋したものである。文章をよく読み、以下の設問に答えなさい。
- なお、答えの冒頭に設問の数字（1， 2， 3， 4）を記すこと。

※この部分は、著作権の関係により掲載ができません。

※この部分は、著作権の関係により掲載できません。

※この部分は、著作権の関係により掲載できません。

- 設問 1 下線部①の著書の内容について、課題文に記載されていること以外に、知っていることを記しなさい。
- 設問 2 下線部②に関して、「新しいヒューマニズム」とはどういう意味か。課題文の記述をもとに説明しなさい。
- 設問 3 下線部③に関して、クランとは何か。リネージと比較しながら、知っていることを記しなさい。
- 設問 4 二重下線部の「ラドクリフ＝ブラウンの視点」は、1950 年代以降、強い批判を受けることになる。いかなる批判が生まれたのかを説明したうえで、「ラドクリフ＝ブラウンの視点」に対するあなた自身の考えを述べなさい。

II. 次の問題から 3 つ選び、冒頭に選んだ問題の記号を明記して、文化人類学の立場から答えなさい。

- A. 人類学における既存の親族研究は、現代社会においてどのような意義を持ち、さらに、今後どのような発展の可能性があると考えますか。
- B. エスノグラフィ（民族誌）をめぐるこれまでの議論について知るところを簡潔に述べたうえで、エスノグラフィ（民族誌）のもつ可能性について考えを述べなさい。
- C. 国家およびナショナリズムに人類学的にアプローチすることの意義について、先行研究の議論にふれながら、考えるところを述べなさい。
- D. 贈与に関する人類学的研究について知るところを簡単にまとめたうえで、今後の研究としてどのような可能性が考えられるか述べなさい。
- E. 「もの（モノ、物）」をめぐって、人類学ではこれまでどのような調査研究および議論が行なわれてきたかを簡単にまとめたうえで、今後の発展の可能性について考えを述べなさい。
- F. 世界規模の伝染病に関する調査研究を行なう場合、どのようなアプローチ方法があると考えますか。

III. 文化人類学コースにおいて今後どのような研究を計画しているか、テーマおよび研究方法を具体的に述べ、主要な先行文献を書き添えなさい。III 用解答欄に句読点を含めて 300 字以内で記すこと。また、関連する卒業論文やゼミ論文（予定を含む）、あるいは既発表論文があれば、欄外にその題目を付記しなさい。外国語の場合は日本語訳を添えること。

————これより先の余白には絶対に記入しないこと————

(裏へ続く)

————ここから記入すること————

(裏へ続く)

————これより先の余白には絶対に記入しないこと————

(裏へ続く)

III 用解答欄

——ここから記入すること——

This image shows a full page of blank graph paper. The grid consists of small, uniform squares arranged in rows and columns. There are no margins, text, or other markings on the page.